

リハビリテーションカレッジ島根
学校関係者評価委員会
令和6年度

令和7年2月26日(水)
リハビリテーションカレッジ島根 会議室

リハビリテーションカレッジ島根 学校関係者評価委員会

日 時：令和7年2月26日(水) 18:00～19:00

場 所：リハビリテーションカレッジ島根 会議室

報告・検討事項

1. 自己評価報告書の結果について
2. 次回の開催について

1. 自己評価報告書について

学校職員が行った「自己評価報告書（別紙）」について報告を行い、委員からの質問や意見を聴取した。

[項目1]理念・目的・育成人材像について

概ね高い評価となった。

今後も本校のアドミッションポリシー、ディプロマポリシーに沿って学生教育を行っていく。

委員からのコメント

特になし

[項目2]学校運営について

概ね高い評価となり、大きな問題はなかった。

委員からのコメント

特になし

[項目3]教育活動について

- ・今年度の国家試験は自己採点ベースで、理学療法学科が93.3、作業療法学科と言語聴覚学科が100%となっている。発表は3月だが、3学科揃っての合格率100%もわずかながら可能性は残っている。
- ・留学生を含め、学生間の学力差が大きく、到達レベルの設定に苦慮している。
- ・実習地の確保が引き続き大きな問題として挙げられ、特に留学生の受入れ先確保には苦慮している。

委員からのコメント

- ・3学科揃っての100%合格を期待する。ぜひ達成してほしい。
- ・実習の受け入れは、法人やグループに一括で依頼できる方法はないか？
→それができると状況は大きく変わる。教員レベルでは限界があり、ぜひ上のレベルでの検討をお願いしたい。[教務部長：青木]

[項目4]学修成果について

近年、就職支援には力を入れており、特に第一希望就職先への就職率70%以上を目指している。今年度も70%は超える見込みである。

委員からのコメント

特になし

[項目5]学生支援について

休退学者の防止に力を入れているが、学生が突然退学の意向を示すケースもみられ、学生相談室を含めた対応の必要性を感じる。セラピストになる意欲が希薄な留学生の対応も必要である。

□委員からのコメント

- ・せっかく学生相談室があり、公認心理士の配置があるのであれば、そこに結びつける方略が必要ではないか。
- いずれにしても問題の早期発見が必要となる。そのためには担任を中心とする学科教員と学生の日頃からのコミュニケーションが重要であるとする。[教務部長：青木]

[項目 6]教育環境について

概ね高い評価となった。コロナ禍で実施できていなかった海外研修を再開した。

□委員からのコメント

特になし。

[項目 7]学生の募集と受け入れについて

令和 7 年度入学までを含め、3 年連続で入学者数は増加する見込みである。比率的には留学生の割合も徐々に増えている。ただ、日本人入学生の確保が最重要であり、18 歳人口が減少していく中でいかに日本人を増やすか、県内はもちろん県外からもいかに学生を呼ぶか、という方略が必要となる。

□委員からのコメント

- ・留学生から人気があるのは良いことだが、基本は日本人の確保であり、特に地元のリハビリ志望の学生は確実に入学に結び付けて欲しい。
- 今後も地元の高校生を確実に確保しつつ、県外からの入学生を呼べるような特色を出していきたい[教務部長：青木]

[項目 8]財務について

安定した学生数の確保のためには入学生の増加、休退学者の防止が重要である。

□委員からのコメント

特になし。

[項目 9]法令等の遵守について

特に問題なし。

[項目 10]社会貢献・地域貢献について

令和 6 年度も多くの地域貢献活動を実施した。

特に小中高校生を対象とする出前授業や学校見学・体験会が好評である。将来の入学生につながる活動でもあり、今後も力を入れたい。

□委員からのコメント

学校の知名度を上げる良い活動であり、今後も継続してください。

2. 次回の開催について

今回は令和 8 年 2 月に開催予定。